

研修プログラム認定委員会 委員長よりの ご挨拶

専門研修プログラム整備基準の設計で大切にしたこと

もり こうじ
森 晃爾

社会医学系専門医協会 研修プログラム認定委員長
日本産業衛生学会副理事長
(産業医科大学産業生態科学研究所 教授)



社会医学系6学会と4関連団体が集まり、社会医学系専門医協議会（協議会）として制度の検討を始めたのは平成27年9月です。その時点から、制度開始の目標は平成29年4月となっており、1年半の準備期間しかありませんでした。何もない中で、これまで別々に活動をしていた団体が集まり、短期間に制度設計と運営準備を行うことは、ほぼ不可能なことに思えました。しかし当時、日本専門医機構（機構）の臨床分野の専門医制度がこの時期に開始されることが予定されていたため、このタイミングを逃すと、社会医学系に進む医師が減少し、この分野が大きなダメージを受けることが予想されました。そのような危機感を共有したことによって、様々な課題を抱えながらも、無事、本年4月に制度の運用開始にこぎつけることができました。その過程で、制度設計に関わった各学会・団体の代表者の間では、専門医制度の基本的目的は専門医の養成であるが、この制度を通じて社会医学系各分野の相互理解が進み、日本の社会医学の研究と実践が大きく前進することができるのではないかとといった期待が出てきています。

社会医学系の学会のうち、専門医制度を持っているのは、日本産業衛生学会のみです。私は、同学会の専門医制度の運営に長年関わってきました。そのような経験を買っていただき、協議会発足時に設置されたWG-Aのリーダーに任命されました。その後、社会医学系専門医協会（協会）の発足に合わせて、研修プログラム認定委員長に任命され現在に至ります。

平成27年9月の第1回WG-A会合では、平成29年4月の制度開始を前提にした場合、制度の根幹であるプログラム整備基準を平成28年3月までに確定させ、それを前提とした準備を1年間かけて行う必要があるという認識を共有しました。そのうえで、機構との関係を考えて、当時の機構のプログラム整備指針を基本に、社会医学系専門医研修プログラム整備基準の策定作業を進めまし

た。そこで、WG-Aのメンバー間で、「学会（または団体）に持ち帰って検討する」ことを禁じ手とすることにしました。そのような危機感や目標を共有し、それぞれの参加者に得意分野での貢献を果たしていただき、平成27年12月には原案が完成するといった奇跡的なスピードで成果を上げました。その後、モデルプログラムの作成、経過措置指導医を対象とした説明会、基本プログラムの設計などを行い、平成28年9月に企画段階の組織であるWG-Aを無事解散して、運営段階である専門研修プログラム認定委員会への移行を行いました。

プログラムの設計において重要と考えたことは、提供されるプログラムが一定の質を確保するとともに、関係しているすべての学会や団体の実践の場で運用可能であることです。また、この制度を通じて、同じ知識基盤を作り、社会医学関連分野における連携を進めることです。社会医学系では多くのテーマがある中で、実践経験の範囲を絞ったことや3つの分野から1つを主分野とすることは運用可能性を考えてのことです。一方、基本プログラムの受講および副分野の研修を義務化してことは共通の基盤づくりを目的としたものです。現在行っているプログラムの認定においては、“条件付き認定”、すなわち「示された条件が満たされれば認定される」と判定されるものが少なくありません。その多くが、基幹および連携施設で構成される研修施設群内に3分野の指導医が揃っていないことによるものです。これは、これまで社会医学系の他分野の施設とのコミュニケーションが不足していた表れかもしれません。ぜひ、これを機会に、各地域において、社会医学を志す関係者のコミュニケーションを深めていただきたいと思います。

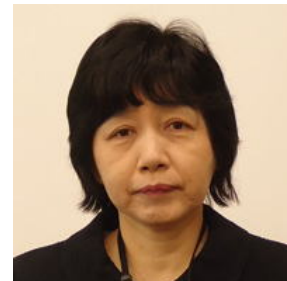
今回の制度が、関係者の良好なネットワークを基盤として、我が国の社会医学の発展に大きく貢献することを期待しています。

専門医・指導医認定委員会 委員長よりの ご挨拶

経過措置専門医・指導医の認定に関わって

せい こ あゆみ
清古 愛弓

専門医・指導医認定委員会委員長
全国保健所長会委員長
(台東区台東保健所長)



専門医・指導医認定委員会において、昨年12月に、前任の城所敏英委員長（前全国保健所長会理事、現東京都南新宿検査・相談室室長）から引き継ぎ、委員長を務めております。本年1月から、経過措置専門医・指導医の認定作業を始めましたが、申請期日を6月まで延長したこともあり、予想を上回る申請がありました。7月末には全ての認定審査を終え、8月末に申請者全員に審査結果通知を送ることができました。社会医学系専門医協会事務局の皆様お疲れ様でした。

社会医学系専門医制度は本年4月から開始しましたが、走りながら考えるという感じで、関係者の皆様の熱意と努力により、凄い勢いで制度の構築が行われました。その中で、当初の7学会・4団体（現在は8学会・6団体）から推薦された委員の皆様が、お忙しい中認定基準を持ち寄り、申請方法について議論を重ねてきたそうです。社会医学系分野といっても範囲が広いので、調整が大変だったと思います。

経過措置専門医・指導医の認定作業ですが、3月末で2,000人を超える申請があり、事務局はパンク状態でした。制度の周知に時間がなかったこともあり、問い合わせが多く、細かい質問にメールで答えることが続きました。申請書に基づき認定審査を行いました。情報が不十分の場合は問い合わせを行い、社会医学系活動年数の判断に苦慮する場面もありました。1日中会議室に籠って審査をすることが多く、大変疲れましたが、顔を合わせることで、お互いの専門分野や立場が理解できたのではないかと思います。次年度は、今回の結果を踏まえ、円滑な審査ができるように、申請書の記載方法についての見直しを検討中です。また、経過措置期間での申請方法についても、問合せが多いため、わかりやすい内容にしていきたいと思います。

今回の認定作業の中で、申請者への結果通知について、

委員会での審査結果が一部反映されていなかった事例が4月に判明し、急遽確認作業を行うことになりました。認定証の発行が7月に遅れてしまい、申請された皆様に御迷惑をおかけいたしました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

現在、委員会では、更新ルールについて検討を行っています。5年後ですが、学会年次総会等の参加、指導医講習会等の参加など、今から準備をしておかなければなりませんので、決まりましたら、ホームページに掲載して参ります。

最後に、社会医学系専門医制度に関する全国保健所長会での取組をご紹介します。平成29年4月現在、全国に481か所の保健所があり、約1割の保健所では、所長が兼務をしています。社会医学系専門医制度を活用した公衆衛生医師の確保と育成は、全国保健所長会として重要なテーマとなっています。各都道府県で研修プログラムの検討が行われているかどうかを、昨年の9月から3回に渡り調査を行いました。1回目調査（平成28年9月実施、回答率73.5%）では、10か所の取組でしたが、2回目調査（平成29年1月実施、回答率91.8%）では、33か所となり、3回目調査（平成29年6月実施、回答率100%）では46か所となりました。申請予定も含め41か所の自治体で「行政中心のプログラム」または、「大学と連携したプログラム」が作成されたことがわかりました。

次年度には、すべての都道府県で研修プログラムが提供され、専攻医を通して、地域レベルで保健所、大学、事業所、医療機関等における、社会医学系専門医・指導医のネットワークが構築され、公衆衛生医師の人材育成が充実されることを願っております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

今月のお知らせ

※ 平成 29 年度第 1 回理事会、定時社員総会および記者会見

- 2017 年 9 月 23 日、平成 29 年度第 1 回理事会、および定時社員総会が開催されました。理事会での承認を受けて、総会では、平成 28 年度収支決算について報告され、監事の方 2 名による監査報告書とともに、審議の上、承認されました。また平成 28 年度事業報告、平成 29 年度事業計画ならびに収支予算が報告されました。



- 記者会見を行いました。m3.com、週刊「保健衛生ニュース」、篠原出版新社、日本医学出版ヘルスケア・アカデミーの各社からお集まり頂き、総会終了に合わせて、これまでの経緯と、4 月からの制度開始以来の現状について報告、いくつかの質問にも答えました。概ね好意的な評価も伺うことができ、社会からの期待も感じることが出来ました。



※ 認定プログラム、指導医・専門医、専攻医の現状

指導医 2,245 名、専門医 269 名 (2017 年 8 月末現在)
認定プログラム 認定 57、条件付き認定 7 プログラム (2017 年 9 月 5 日現在)
専攻医 59 名 (2017 年 9 月 22 日現在) 注：月末までに、さらに 30 人前後、増える見込み。

※ 研修プログラム統括責任者連絡会議

(大阪会場) 平成 29 年 12 月 23 日(土) 大阪市内 (JR 新大阪駅周辺を予定)
(東京会場) 平成 30 年 1 月 24 日(水) 東京都区内 (場所未定)

※ 説明会・講習会のご案内

学会名 日本公衆衛生学会
タイトル 社会医学系専門医制度 基本プログラム「保健医療政策」
日時 2017 年 11 月 2 日(木) (第 76 回日本公衆衛生学会総会 最終日)
場所 鹿児島：鹿児島県医師会館
URL <http://www.c-linkage.co.jp/jsph76/>

学会名 日本医療情報学会
タイトル 第 37 回医療情報学連合大会 教育講演 社会医学系専門医制度指導医講習会
日時 2017 年 11 月 21 日(火) 16:30~18:00
場所 大阪：グランキューブ大阪 (大阪国際会議場)
URL <http://jemi2017.jp/>
指導医講習会とみなします。

それぞれ社会医学系専門医制度 WEB にて閲覧可能になっておりますので、ご確認ください。

※ 専攻医の登録・研修プログラムの申請・専門医/指導医の申請

1. 専攻医の登録の期限：2017 年 9 月 30 日まで

制度開始の今年度に限り、2017 年 9 月 30 日までに登録すれば、社会医学系活動・研修の実質があれば、研修は 4 月開始とみなせる。(それ以降は、専攻医の登録は随時可能で、研修期間開始は専攻医の登録から 3 か月まで遡れるものとする。)

※※ 専攻医の登録は社会医学系専門医制度事務局ではなく、研修を受けるプログラムの管理委員会を通してご提出ください。

2. 社会医学系専門医研修プログラムの申請：次回の申請受付期間は、本年 2017 年 12 月頃の予定。

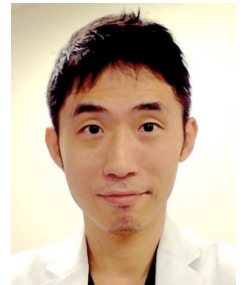
3. 専門医、指導医の申請期日は、2017 年 6 月 30 日までで終了しており、次回の申請 (認定期間は 2018 年 4 月からとなる) の受付期間は、2017 年 12 月頃予定。

シリーズ : UHC Leadership Programme 参加報告

5日間合宿のグループワーク及び英語プレゼンテーションの経験

うえまつ ひろのり
上松 弘典

京都大学大学院医療経済学分野研究員



皆様はじめまして。私は日頃は、京都大学でレセプト情報等のデータを用いて医療経済・臨床疫学研究を行っています。去る2017年3月、WHO神戸・神奈川県の共同主催であるUHC Leadership Programmeに参加しました。きっかけは“研究室のボスに誘われたから(命令?)”と情けなくも消極的なものでしたが、結果としてとても素晴らしい経験になったと実感しております。私の方からは、その合宿中のグループワークが実際どのようなものであったか感想を含めお話ししたいと思います。

今回のプログラムでは、そのメインワークとして連日のグループワークとそれに伴うプレゼンテーションの機会がありました。主たる流れは、①数十分の講義実施後に講義内容に沿う提示されたお題を国毎(参加国であるマレーシア、ベトナム、カンボジア、日本)に別れて数十分間議論し、②それをまとめて各国代表の1名がプログラム参加者全員の前で数分のプレゼンテーションし、③最後に皆で質問や議論をし合うというものでした。今回の合宿中に実際頂いたお題の内容の一部を例に挙げますと「どのような技術が生活の質や健康機能を支えていくか」「国毎に国民皆保険に関わるアクションプランニングを作ってみる」「リーダー(の素養)に関連する言葉は何か」等、専門でなくとも社会医学系の方ならば興味関心のあるテーマであったなと思います。お題については

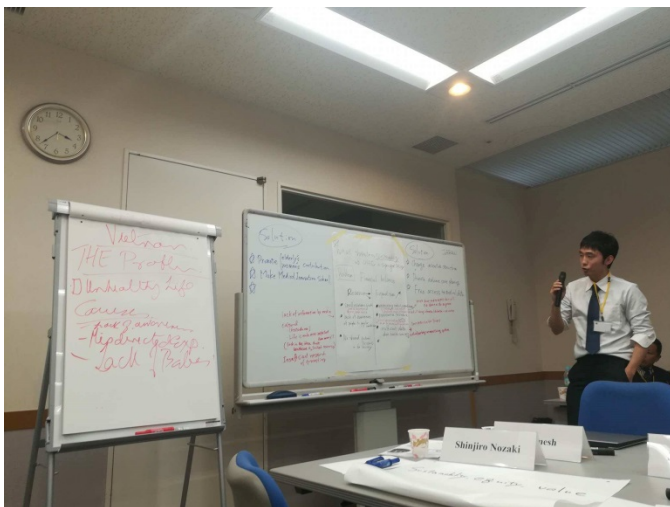


行政官がメインである一方、我々日本チームは行政官はおらず、研究者、臨床医、学生等キャリアの背景にばらつきがあったため色々な角度からのアイデアを聴くことができ、日本チームの中の議論だけでも自分の視野がとても広がる経験となりました。

社会医学の内容での英語プレゼンをこんなにも気軽に5日間を通して行え、また各国のリーダー達と議論できるという機会は非常に貴重な経験だと思いました。恥ずかしながら日頃は国内でさえ皆の前でプレゼンする機会はそんなに多く持っておらず、まして英語では国際学会や研究者会議くらいでした。正直申し上げると、皆で意見を出し合っただけの沢山のアイデアを短時間でまとめ、数分の英語でわかりやすく発表するのは難しく感じてもいました(私の英語力の低さが主因ですが)。しかしながら、様々な発表を行うことで、国民皆保険を達成し超高齢社会を迎えている日本が今何を考えているかの生の声が、これからそれらを経験するであろう国のリーダー達に幾許かは伝わったのではないかと思います(逆もまた然りで)。そして続く質問や議論を通して交流を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、このような貴重な機会を設けて頂いたWHO神戸センター、神奈川県、そして一緒に5日間に渡る合宿を支え乗り切った参加者の皆様に厚く御礼を申し上げます。本当に有り難うございました。

(シリーズ完)



各国の文脈で議論することになっていたの、プレゼンテーションも各国の事情を反映した様々な意見が聞け、新鮮かつとても勉強になりました。また他国の参加者は